



球美の里だより

十年目の原点

「なんでもなくて、よかったね」。

高校生になった妹は、二十歳

を過ぎた姉にそう言われ、二人で

帰っていった。数年前まで姉妹は、

親に連れられて甲状腺検査に来ていたのだろ
う。

十年前に生まれた赤ちゃんは、小学生になっ
ている。小さな子を連れて検診に来た若いお母
さんは、原発事故当時、高校生だった。あの時、
自分がどこで何をしていたのかさえ覚えがな
く、被ばくによる影響、自分の体が心配で、親
にも言わず、一人で甲状腺検診に来る若い人も
いる。

「安全・安心」。仕組まれた言葉のロジックと、
意図された数字のトリックに、今までどれだけ
翻弄されてきたことだろう。

なすべきことは、言葉の押し付けではなく、
まず不安な気持ちを共有していくこと。それは
何年たっても変わらない。

たらちねクリニック 院長 藤田 操



2021 年も早いもので 3 月を迎えました。昨年から続いているコロナ禍、今冬の東北・信越を中心とした豪雪被害、終わることのない放射能問題。

被害に遭われたみなさまには、心からお見舞い申し上げます。

また先日、震度 6 という大きな地震も起きました。2011 年 3 月 11 日に起きた地震の余震ということですが、被災地はもちろん、ご支援のみなさまも一様に驚かれ、はっとされたのではないのでしょうか？

福島原発震災事故から 10 年目のいま、本来なら球美の里は、母子保養の真っ最中。また、春休みの学童保養の準備などで充実した日々を送っているはずでした。

ご承知のように、コロナ禍のため昨年 2 月の保養をもって休止となり依然先が見えない状況です。福島では、今でも放射能被曝を避けるために外遊びを制限されている子どもたちもいることでしょう。コロナ禍がさらに行動の制限に拍車をかけています。子どもたちの健康は大丈夫でしょうか？保養の 1 日も早い再開を祈るばかりです。

ニュースレターが昨年 7 月以降発行されず、球美の里はどうしているのだろうか？とご心配のみなさまもいらっしゃると思います。前号では、夏に長野県、山梨県での保養を実施予定とお伝えしましたが、残念ながらそれも中止になりました。

今回のニュースレターでは、現在の球美の里・久米島事務局の状況や福島・たらちねの状況などをお伝えしたいと思います。なお、みなさまからいただいたご寄付は、施設管理費および再開時の保養費とさせていただきます。

どうぞ今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

久米島事務局より

未曾有の東日本大震災より 10 年となります。また、新型コロナが日本全国に深刻な影響を与えています。2019 年 10 月より久米島事務局長に就任いたしました。私事で恐縮ですが、今まで会社に勤めながら、球美の里に関わっていましたが、1 月末日で早期退職しました。球美の里に専念できる状態となりました。

さて、すでにお伝えしていますように保養再開の見通しが立たないことにより、2020 年 7 月より球美の里のスタッフは一旦解散として、現在は 2 名体制で、いつでも保養再開に対応できるように施設の維持管理などを行っております。

久米島町発表の新型コロナウイルス感染者情報によると、これまでに島内で 7 名の感染者が発表されていましたが、現時点（2021 年 2 月 15 日）では 7 名とも退院または療養解除となったとのことでした。



子どもたちと植樹した寒緋桜
2021/2/7 撮影

沖縄県緊急事態宣言の中、東北楽天ゴールデンイーグルスのキャンプも中止となり、現在の久米島は観光客も少なくなり、閉まっているレストランなども多くなっています。医療体制が脆弱な離島でのクラスターが発生しないように、新型コロナウイルス感染に対して、久米島町全体で非常に慎重な対応をしているようです。

我々久米島事務局のスタッフは、「明けない夜はない」と信じて、一日でも早く子どもたちや保養者のみなさまが久米島に保養に来ていただけるように、準備を怠らないでお待ちしております。ご寄付をいただいておりますみなさま、久米島のみなさま、ボランティアのみなさま、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

久米島事務局長 坪井 彰

スタッフ紹介

《 おっちゃん 》

こんにちは！‘おっちゃん’こと坪井です。今は保養がないので、久米島の現地は 2 人のスタッフに任せています。球美の里は 2012 年の第 7 次保養からボランティアで関わっています。今まで年に 2 回程度のペースで約十数回ボランティアを経て今に至ります。生まれは愛知県名古屋市、中学 1 年でラグビーと出会い、それ以来、高校も大学もラグビーを中心に選び、ひたすらラグビーに没頭しました。会社もラグビーができる環境を選び、社会人としてプレーしていました。40 歳からはラグビー業界に対しての恩返しで、大阪のラグビースクールでコーチをしています。特に幼稚園クラスをメインに担当しており、小さい子どもたちと遊ぶのが大好きです。球美の里では、おっちゃんタイムと言って、外遊びの時間があります。“徹底的に遊ぶ！”がモットーです。



《 ヒロ 》

はじめまして、久米島事務局のヒロと申します。私は東日本大震災の後、福島から沖縄本島へ避難移住し、第 2 次保養のボランティア参加をキッカケに久米島へ移住して、現在スタッフとして働かせていただいております。

突然ですが、福島のひよっとこ踊りをご存知でしょうか？ 祖父が張子のひよっとこ半面で有名



な三春の高柴デコ屋敷集落の出身ということもあり、私もひょっとこの世界感に魅了され、踊りを舞っています。球美の里でも色々な場面で登場します。お面の内側から子どもたちの笑顔や驚く様子、お母さんたちの笑い声を感じた瞬間「ひよい」と自分にひょっとこが降りてきて何かが弾けて開放された不思議な感覚になり、踊りを舞うことがあります。すると子どもやお母さんたちがココロを開放して笑う姿を目にすることができ「ああ、このためにここにいるんだ」と感じて「子どもたちの未来のために踊り続けたいな」と思うのです。

現在、保養を中止していますが、子どもたちがいつでも来られるように、新しいことにもチャレンジしてリラックスして過ごせるような施設(家)を目指して準備しております。

いつも応援ありがとうございます。

《 まい 》

2020年4月から職員になりました“まい”です。子どもたちと思いきり楽しむぞ〜と気合を入れているのですが、一度も保養ができないまま……。やるせない気持ちを小脇に抱え、今日まで施設の維持管理に務めております。ブログやSNSも担当し、発信中☆彡

生まれは福島県伊達郡。山々に囲まれた田舎町で生まれ、高校時代までを過ごしました。大学から上京し、たくさんの出会いや選択肢の多さにわくわくしながら過ごすこと十数年。突然人生の転機はやってきました。島への移住です。「ここで何か見つかる気がする・・・！」そんな直感とご縁を信じて、迷わず飛び込みました。そうして2019年夏、出会ったのが球美の里です。いつも球美の里を応援してくださるみなさんや必要としてくださるみなさんの顔を思い浮かべながら、私たちにできることを模索する日々。一緒にこんな体験したいな〜をたくさん発見し、妄想でわくわくが止まらなくなる始末。みなさんにお届けできる日を楽しみにしています！



球美の里 施設開放中！



球美の里では、いつでも福島の子どもたちが戻ってこられるよう、日々施設の保全・管理作業を行っております。その間、この施設を活かして久米島町に貢献できないことがないか模索した結果、2020年11月から、久米島町内の幼稚園・保育園・子育て支援センターなどの子どもたちを対象に、施設を一部開放しています。その様子をお届けします。外遊びやピラミッド（プレイルーム）が子どもたちに大人気！

季節やお天気に関係なく、元気に走り回る姿を見守っているだけでほっこり♪ 同行している保育園の先生たちも夢中になっている姿が印象的です。雨天でも楽しめるピラミッドの中では、ニキティキさんから寄贈いただいた木のおもちゃや身体全体を使って遊ぶおもちゃなどで大盛り上がり！そこには誰もがダイブしてしまうゾーンもあります。久しぶりに聞いた子どもたちの笑い声や走る足音、おもちゃと向き合う真剣なまなざし、すべてがいとおいしく感じます。

保養中は当たり前そこにあった子どもたちと過ごす幸せな時間が、コロナのおかげでとても大切な時間だと気づかせてもらいました。

お母さんと一緒に子どもたちが遊びにきてくれた日もありました。お母さんと手をつないで、岩山探検からスタート。母子保養を思い出す光景でした。岩山から海を眺めながら、「今日一日ここでぼーっと過ごせたらなあ……」とお母さんのつぶやき。少しでもこの場で癒されてもらい、パワーチャージして、日々の子育てを頑張ってほしいと感じたワンシーンでした。

2020 年も終わりに近づいてきた 12 月、施設を開放してから 1 か月ほど経ち、常連の子どもたちも増えてきました。

小学校の学習発表会を頑張ったご

褒美に、子どもたちが「球美の里へ行きたい！」と先生に要望を出して遊びにきてくれたことも。うれしいですね。到着した瞬間から子どもたちはエンジン全開！！ 底知れないパワーを感じます。いつも遊びに全力で、それぞれが自分の好きを見つけ、個性を発揮しながら遊ぶ。その姿が周りに与える影響は大きいと感じます☆



ブログ



Facebook



Instagram

球美の里の様子は、ブログや SNS（Facebook・Instagram）で随時更新しています。ぜひフォローをお願いします♪

知らなかった沖縄の悲劇～作文の紹介

以前、球美の里の保養に参加したことがあるお子さん(当時小学5年生、現在6年生)が、久米島で過ごした思い出を作文に書き、いわき市で特選に選ばれ、さらに、いわき市のラジオ(FMいわき『タやけみんなの文集』)で朗読されたことをお母さんからご報告いただきました♪ 作文をご紹介します。

『日本兵に殺された日本人がいる』

こんな言葉を久米島の人から聞いたぼくは、アメリカ兵のまちがいだと思いました。でも、それは本当の話でした。

ぼくは、夏休みに3週間沖縄県の久米島へ行ってきました。それは、原発事故の復興支援で「球美の里」という団体が行っている事業です。久米島に到着したぼくの目の前には、青い海と空、マングローブの深い緑の森が広がっていました。それらを見て、ぼくはわくわくしっぱなしでした。毎日のように海で泳いだり、川で魚をとったりしました。沖縄の守り神と言われるシーサーの色ぬりも体験しました。友達もたくさんでき、一緒にサッカーをしたり、宿題をしたりしました。食事もみんなと一緒に食べ、とても仲良くなれました。沖縄の料理はとてもおいしく、なかでも一番おいしかったのは、おやつに食べたマンゴーです。あのとろりとしたあまい味は、忘れられません。楽しい思い出がたくさんできました。しかし、ぼくの心に一番強く残ったのは、日本人が日本人を殺してしまったという話です。

◇ ◇ ◇

昔、日本はアメリカやイギリスなどの大国と戦争をしていたそうです。沖縄やこの久米島も戦場となり、「沖縄戦」と呼ばれています。沖縄戦では、アメリカ軍が沖縄に上陸してきて、住民もまきこんで激しい戦いになったそうです。その戦いの中で、アメリカの兵士につかまった日本人が、日本が不利な状況にあることを知りました。後日アメリカ軍から解放され、急いで日本軍に伝えたところ、アメリカ軍のスパイだとうたがわれて殺されてしまったそうです。日本のために情報を伝えたのに、日本人に殺されてしまったのです。戦争は、敵同士が戦うものだと思っていたぼくは、とてもおどろきでした。それどころか、スパイだとうたがわれて殺された日本人が20人以上もいたことにもおどろきました。

沖縄から帰ってからすぐに、ぼくは父にこの話をしました。父も、日本兵が同じ日本人を殺していたということを知らなかったそうです。話を聞いた父は、「戦争は、だれにとってメリットがあるのか全く分からない。戦争中は、誰でも普通の精神ではなくなってしまうのだろう。そうさせてしまう戦争は、二度とあってはならないよな」と、言っていました。その

言葉を聞いて、人間が普通の精神状態ではなくなってしまう戦争が、とても恐ろしいものに感じられました。そして、ぼくも父と同じように、戦争は二度と起こしてはならないと強く思いました。

正直ぼくは、今まで戦争というものにそれほど関心がありませんでした。しかし、今日久米島で話を聞いて、もっと戦争について知りたくなりました。そこで、インターネットや本で沖縄戦について調べました。沖縄が戦場になってしまったわけは、太平洋の島々をうばったアメリカが、沖縄を占領して日本を攻めるための基地にしたいと考えていたからです。それに対して日本は、アメリカ軍が日本本土に攻めてきたら困るので、なるべく長くアメリカ軍を沖縄でひきとめておきたいと考えました。そのため沖縄戦は長く続くことになってしまったそうです。戦争は、ふつう軍隊と軍隊、軍人と軍人が戦うものだと思っていましたが、沖縄戦は違いました。武器を持たない住民もぼくと同じくらいの年齢の子どもさえも、日本兵と一緒に手伝いをしたりアメリカ兵と戦ったりしたのです。その結果、沖縄戦では軍人よりも多くの住民の命が失われてしまいました。その人数は、沖縄県に住む人々の4人に一人の割合だと言われているそうです。

◇ ◇ ◇

家族と一緒に生活できること、友達と楽しく学校生活が送れること。また、自分の意見が自由に言える当たり前の生活をずっと続けていきたいと強く思いました。沖縄で見たあの美しい空や海、そして森を思い出しました。「この景色をこれからも見続けていきたい。そのために、ぼくには何ができるのだろうか」。たぶん、ぼく一人の力では、戦争をなくすことはできません。でも、何か行動しなければと思いました。だから、まずは思いやりの心をもって生活することから始めます。この小さな積み重ねが、いつか大きなうずになり世界中の人々の心に届いてくれることを信じたいと思います。「この新しい元号、令和の夏に、世界が平和で笑顔多き人々であふれますように」と、願いを込めて。

(※紙面の都合上、一部割愛させていただきました)



「いわき放射能市民測定室 たらちね」から

震災から10年目の福島と子どもたちの今

東日本大震災による福島第一原発の事故から今年で10年目となります。あの日から10年を経て感じることは、原発は今も危険な状況であること、10年前には思いもよらなかったいろいろな問題が子どもたちのまわりに降りかかっているということです。

2021年2月13日に起きた福島県を震源とする地震は、今も福島第一原発に大きな被害を与え続けています。地震直後の発表では冷却用のプールの水が数リットルこぼれたということだけでしたが、その後、汚染水のタンクがずれていた、デブリ冷却用の水位が著しく下がっていた、原子炉内の圧力が急激に下がっているなど、2011年3月11日を彷彿とさせる被害の報告が相次いでいます。

私たちは、この10年で、こんなニュースには慣れっこになってしまい、再び避難をするなど大きな動きをする人はいません。でも、地震があったその日の夜中はガソリンスタンドに車が列をなし、ガソリンを入れる人たちの行列がありました。原発事故があってから時々思うことですが、中東など、万年紛争をしている地域というのはこんな感じなのかなと。

危機はすぐ隣にあるけれども、その怯えと何らかの折り合いをつけながら生きるということです。ただ、紛争地帯では爆弾が落ちてこなければ命を失うことはありませんが、原発は爆弾が我が家に落ちなくても爆発すれば放射能が襲ってきます。

見えない爆弾を庭先に抱えているという状況はこの10年、変化もなく続いています。

◇コロナウイルスの感染拡大

10年間のそんな環境の中、2020年はコロナウイルスの感染拡大がありました。子どもたちは大人と同じように、学校や外出の時などマスクをして生活しています。校庭を走り回って運動したり、お友達とふざけあったり、子どもたちの日常の運動量は大人の比ではありません。そんな中、マスクをして息苦しく生活していることを思うと、10年前の震災の時を思い出します。あの時は、思いつきり息を吸い、呼吸することもはばかられました。放射性物質を吸い込んでしまうからです。形は違えど、今も同じ状態です。こんな時こそ、子どもたちには保養が必要だと感じます。

しかし、コロナ禍の中、移動による感染も報告され、不要不急の移動はしてはいけないとの世の中の動きから、球美の里の保養も今は停止している状況です。福島から沖縄への道のりは長く、その間に感染する可能性があるからです。また、久米島という離島に本州からコロナウイルスを持ち込みでもしたら、責任を問われるかもしれないというコンプライアンス上の問題も考慮し今の状況に至っています。保養は不要不急ではないと思います。だけど、行うことができずにいます。

たらちねには、母親に連れられてクリニックの診療を受けに来る子どもたちが大勢います。コロ



ナウウイルスの感染が拡大してからある日のこと、来院した子どもたちがクリニックのお部屋で遊ぶ様子を見ていたら、なんとなく元気がないので、つき添っていたお母さんに「なんだか元気がないけども、調子が悪いのかな?」と聞いたら、お母さんは「コロナウイルスが流行りだしてからなんだか元気がなくなってきちゃったんです」と、話していました。毎日思いっきり体を動かしたり、お友達とふざけたり、そんなことがマスクの生活により制限され、はばかられ、その身体的・精神的息苦しさから呼吸することそのものが日常とは違う状況にあり、子どもたちこそが本当に大変だなと感じました。

10年前の震災直後の様子と今回のコロナウイルスの感染拡大による「見えないものへの恐怖や心配」はよく似ているといわれます。確かにそう感じることは多いです。

◇原発事故さえなければ

こんな時、原発事故さえなければ、と思います。子どもたちが、人口の密集しない場所でマスクを外し、のびのびと動き走り回ることができたらどんなにいいだろう。福島県は全般に人がいない場所はたくさんあり、山や海や川など自然も豊かです。しかし、皮肉なことに、原発事故により、そういった場所こそが高濃度に汚染され、さらに除染が困難な区域でもあります。だから、そんな場所でのびのび遊ぶことは、まだまだはばかられます。セシウム 137 の半減期を考えると、最低でもあと 20 年は待たなければなりません。

コロナウイルスの感染が拡大し、日本全国の子どもたちがマスクをして生活しています。毎日の暮らしの中の息苦しさはどの子どもも同じだと思います。ただ、福島の子どもたちが他の地域の子どもたちと違うところは、原発事故が日常の中に存在し続けるということです。本来なら、マスクを外しのびのび走り回り、自然体験ができる場所も、汚染により限られ、安全だといわれる場所もまた、ホットスポットという落とし穴がどこに

潜むかわからない、そんな状況です。

◇保養の重要性



球美の里の保養@久米島ホテル館

今、子どもたちは保養には出かけられない状態です。そうやって、なおさら保養の重要性を頭ではなく体で感じるようになりました。

福島から久米島までの道のりは長く、コロナの感染リスクも大きいと思います。しかし、もう少し近場で福島原発事故の影響を比較的受けていない地域での自然体験をさせることができれば、と考え、球美の里では昨年、内地での保養も計画しました。子どもたちの心身の安らぎにつながると考えたからです。しかし、コロナ感染状況の悪化で中止せざる得ませんでした。

10 年前に原発事故があり、10 年過ぎても原発は危険なもので、さらにコロナウイルスの感染拡大があり、福島の子どもたちは厳しい環境の中で毎日を過ごしています。子どもたちは大人が思うより責任感が強く、自分が頑張らなければいけないという気持ちがあります。原発事故が起きたせいで子どもたちの小さな肩に背負わせる荷物は膨大な大きさになりました。

このことを、今の責任を担う世代の大人たちがどう考えていくのか、私自身も含めこれから考えていかなければならないことだと思います。

また、1 日も早く子どもたちが日常の煩わしさを気にせず、のびのびできる保養が再開される日にくることを心から願っています。

鈴木 薫
いわき放射能市民測定室たちね 事務局長
沖縄・球美の里 副理事長

たらちねクリニック

★たらちねでは、さまざまな測定事業を行っています。そのほかに心のケアを行う「あとりえたらちね」、地域の人々が気軽に相談・診療に来られるようにと「たらちねクリニック」も開設しました。

院長の藤田 操先生は 2017 年の開設時から、『みさお先生のたらたら日記』をたらちねのホームページで公開。その 41 番目の日記が表紙トップに掲げた『十年目の原点』です。下記に掲載したのは一番目の日記。たらちねのホームページ・クリニックの項で今までの全文をご覧ください（いわき市の『日々の新聞』にも掲載されています）。

★クリニックでのマネージャー、進藤ユリさんの文章も合わせて紹介します。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室
たらちねクリニック
院長 藤田 操

〒971-8162 福島県いわき市小浜花畑町11-3 カネマンビル3階 Tel.0246-38-8031 診療科目 内科・小児科／診療時間 午前9時～12時・午後2時～5時（受付は30分前）／土・日・祝日休診

①種をまく

ぼくのノオト

二十年前、フリーリンで医療活動をしていた時の思い出です。
「わたし、大人になったらスカベンジャーになる」
マニラのスラム街で出会った、4歳のジェサはそう言った。
ジェサの母エルサは、町中のごみが捨てられるダンブサイトのスラムで育った。そこで、お金になるごみを集めて生活するスカベンジャーとして、子どもの時から働いていた。何の希望もなく、麻薬に溺れる日々もあった。
やがてエルサは、何度も訪ねてくるヘルスワーカーや医師に心を開き、一緒に仕事を始めた。地域のスポットマップを作り、歯を磨くこと、手を洗うことを子どもたちに教えた。
ある日、小学校に通うようになったジェサに、将来の夢をもう一度聞いてみた。
「わたし、ヘルスワーカーになりたい」
ジェサは嬉しそうに、そう答えた。
夢と希望の種をまくこと、そして育ていく命を見守っていくこと。子どもたちのために、できることから始めていきたい。



東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から10年が経とうとしています。

震災当時、宮城県に住んでいた私たち家族は、翌年秋に夫婦の地元である福島県に戻ってきました。子どもたちは5歳と3歳でした。

帰省すると遊んでいた海。津波や放射能の恐怖から息が苦しくなり近づくことができませんでした。

しばらくすると宮城県の友人から「こんなに街並みが変わったよ！ 新しい建物もできて迷子になりそうだよ」と写真が送られてきました。活気に満ちあふれ輝いて見え嬉しくなりました。

一方、私が生まれ育った町（双葉町）は、あの日のままです。一度だけ写真を見ましたが、実家は窓が大きく開き、草で覆われ、いつも遊んでいた空き地には不気味な黒い袋が積み上げられていました。現実を受け入れられない私だけが取り残

されたようでした。いまだ一時帰宅できずにいます。どうしても決心がつきません。きっと、私のように頭では理解していて前に進んでいるように見えても、心では震災を忘れたい。無かったことにしたい。と思っている人は多いはずです。

たらちねで働くようになり、さまざまな場面でたらちねスタッフに救われることがたくさんありました。私自身ずっとここから動けずにいるのは苦しいです。同じような思いの方に寄り添い励まし合って乗り越えていきたいと思います。

子どもたちのこれからのためにも、みなさんと一緒に道しるべになっていきたいです。

進藤 ユリ

たらちねクリニックマネージャー

たらちねホームページ

<https://tarachineiwaki.org>

「福島原発事故災害から10年目のアンケート」結果～県内版

昨年11月に「福島原発事故災害から10年目のアンケート」を実施しました。同アンケート実行委員会が実施したもので、沖縄・球美の里も賛同・協力団体として実行委員会に加わっています。東日本大震災による原発事故から10年目の今、福島のみなさまの心身の健康や暮らしの様子を細やかに知り、今後の活動に役立てていくために各団体が協力して実施しました。

福島原発事故当時に福島に住んでいた方々を主な対象として、いわき放射能市民測定室 たらちねから約12,000名に郵送し、今年2月末までに1,112通の回答をいただきました。

アンケートは大きく6つの項目、【震災後の行動】【健康】【放射線】【心の問題】【子どもの保養】【原発事故と世の中の動き】について、全7ページ、41問にわたり尋ねています（保養についての設問のみ、参考までに末尾に掲載します）。回答の内、原発事故当時に福島県内在住で、現在も県内に住んでいる方（322名分）の集計が終わったので、結果の一部をご報告します。322名の内訳は浜通り141名、中通り172名、会津9名です。

今回、本紙面でご紹介できるのはごく一部ですが、県外の方々の集計が終わり次第、賛同・協賛団体のそれぞれのホームページで公開する予定です。アンケートにご協力くださったみなさま、ありがとうございました。

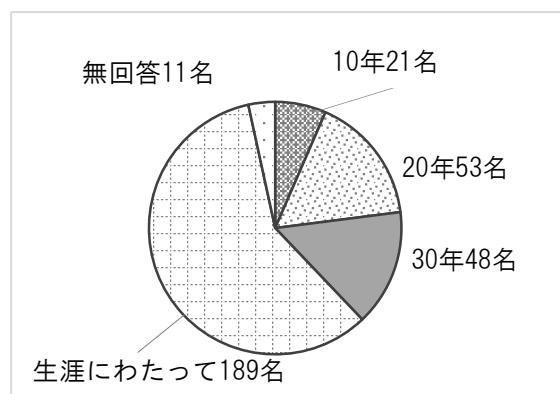
【健康について】の質問

Q12 原発事故以前にはなかったが、原発事故後に出た症状について（複数選択可、家族も集計に含む）

症状	合計	浜通り	中通り	会津
疲れやすい	124	46	77	1
風邪をひきやすい	36	15	20	1
手足の骨や関節が痛む	60	18	40	2
白内障や視力の低下などの視覚障害	36	20	16	0
甲状腺に異常がある	38	17	21	0
白血病	2	1	1	0
腫瘍	17	8	9	0
頻尿	47	26	20	1
带状疱疹	26	13	12	1
ヘルペスや口内炎などの異常	65	35	28	2
しっしん、痒みなどの皮膚の異常	59	30	29	0
事故後に生まれた子どもに精神疾患・発達障害・奇形などの障害がある	6	0	5	1
その他	42	17	25	0

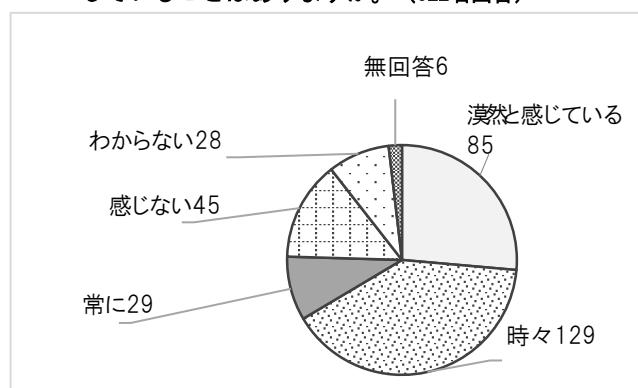
全体 322 名（浜通り 141 名、中通り 172 名、会津 9 名）

Q14 甲状腺検査は、事故後いつまで続けたらよいとお考えですか。（322名回答）



【心の問題について】の質問

Q21 福島原発事故に関連することから精神的に不安を感じていることはありますか。（322名回答）



Q22 Q21で「感じている」と答えた方、何について不安なのかお書きください。（一部抜粋）

*何時また災害があり異常事態になるかについて *原発事故の放射能のかたまりがすぐそこにあるのだから

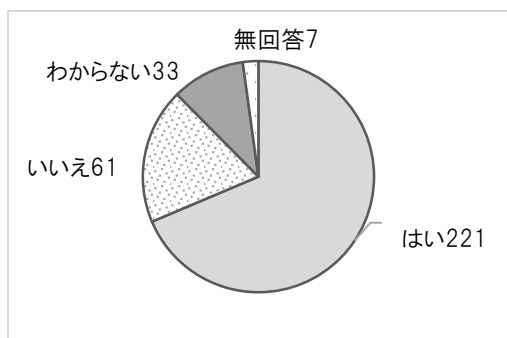
*今後の子どもの健康面 *いまだに収束しない作業中に、何事か起きての空気汚染について

*子、孫の将来的な健康に関する全体的不安 *子どもの将来が“福島”生まれで困らないか

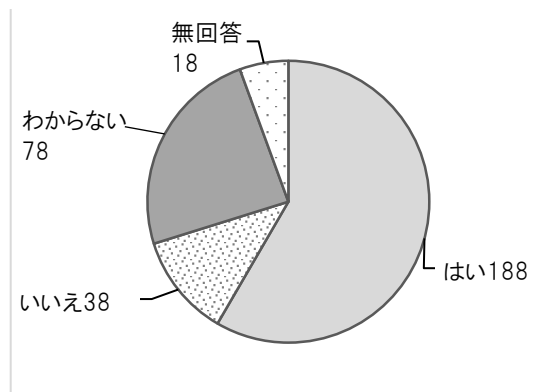
*健康被害と食の安全について *何事も無かったように魚介類を食べているが、半減期の長いストロンチウムが今後心配、若い人達の白血病の増加や関節の痛みを訴える人が増えていると思います。

【子どもの保養について】の質問

Q29 福島原発事故によるケアのための保養や自然体験活動に参加したことがありますか。（322名回答）



Q30 今後も子どもたちの保養は必要だと思いますか。（322名回答）

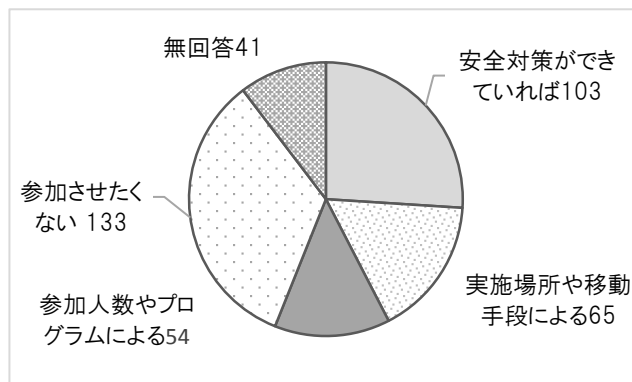


Q33 保養や自然体験活動の実施場所にはどこがふさわしいと思いますか。（複数選択可）

※回答数の多かった所、少なかった所それぞれ10か所を掲載

沖縄	159	静岡	22
北海道	148	宮城	9
鹿児島	94	福島	8
宮崎	93	神奈川	8
熊本	90	群馬	6
大分	90	埼玉	6
長崎	89	東京	6
福岡	88	栃木	5
佐賀	87	千葉	5
高知	69	茨城	4

Q35 コロナウィルスの感染が拡大しています。その状況の中の保養参加についてどうお考えですか。（複数選択可）



* アンケート集計結果は、集計が終わり次第、賛同・協賛団体のそれぞれのホームページで公開します。
福島原発事故災害から10年目のアンケート実行委員会

【賛同・協力一覧】

認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室 たらちね
在イタリア NPO 法人オルト・デイ・ソーニ
非営利未来型株式会社 はは 乳歯保存ネットワーク
武藤類子 谷田部裕子

認定 NPO 法人沖縄・球美の里
未来の福島こども基金
福島ぽかぽかプロジェクト

【子どもの保養について】

29. 福島原発事故によるケアのための保養や自然体験活動にあなたやあなたのお子さんが参加したことがありますか。 *該当するところに○をつけてください						
参加したことがない	参加したことがある	「ある」場合 場所は： _____ 回数は： _____ 回				
30. 今後も子どもたちの保養は必要だと思いますか。 *該当するところに○をつけてください		はい	いいえ	よくわからない		
31. 「はい」と答えた方にお聞きします。 保養や自然体験活動に参加費がかかっても参加を希望しますか。 *該当するところに○をつけてください		はい _____ 円ぐらいなら	いいえ	よくわからない		
32. 保養や自然体験活動の実施場所の汚染や放射線量は気になりますか。 *該当するところに○をつけてください		気になる	気にしない	よくわからない		
33. 保養や自然体験活動の実施場所にはどこがふさわしいと思いますか。 *該当する地域に○をつけてください／複数選択可						
34. 保養や自然体験に求める成果はなんですか。 *該当するところに○をつけてください／複数選択可		被曝の軽減	精神的成長	みんなが 行くから	のびのびとし た自然体験	その他 ()
35. コロナウィルス の感染が拡大しています。その状況の中の保養参加についてどうお考えですか。 *該当するところに○をつけてください／複数選択可						
安全対策ができていれば参加させる。	実施場所や移動手段により参加させる。	参加人数やプログラムにより参加させる。		まだ参加させたくない。		
36. その他、何かお気づきのことがありましたらお書きください。						

新 型 コ ロ ナ が 明 ら か に し た 現 実 / 黒 部 信 一 (小 児 科 医 師)

新型コロナが明らかにした世界の現実、今の現実社会を変えなければ、地球の第 6 番目の大絶滅の時代に突入するのではないかと危機意識が提起されている。約 6 億年前からの歴史では、生物の大絶滅が地質学的時間として短時間に突発した時があった。直前の第 5 番目の絶滅は、恐竜時代であった。その後の、資本主義がもたらした成長を止められない社会が、地球を破滅に向かわせている。クルツェン^{*1}はこの時代を、人が起こした地質学的時代「人新世」と呼んだ。資本主義によって 6 番目の地球上の生物の「大絶滅」が動き出していると言われている。

人類は 20 万年の間、小集団で移動しながら、狩猟・採集生活を営んでいた。当時の人類の労働時間は、3、4 時間を超えることはなく、栄養バランスもよく、虫歯も感染症もなかったし、平等であった。人類史の中でもっとも自由な社会、支配のない社会であった。自由は自然権である。この社会は話し合いの社会である。所有するものがほとんどなく、暴力を行使する理由がなかったから。

※

首長制社会とそれに続く国家の成立は、少数の支配層と多数の民衆に階層分化し、長時間労働、栄養状態の低下、周期的な感染症の流行による大量死が、20 世紀の福祉国家の出現まで続く。階級分化は国家となって確固となり、政治的不平等と経済的不平等があった。

世界システムの中心国家群は、20 世紀初頭 1914 年から 1945 年までの 30 年戦争に突入した。この結果、富と所得の大圧縮が起こった。それが最も著しかったのが日本だという。アメリカ並みの不平等な社会から、デンマーク並みの平等な社会に移行した。欧米でも階級妥協と福祉国家の形成、社会主義国家の成立で、中間層、労働者層をつなぎとめるために、格差の縮小の傾向が一定期間維持された。その結果、人口の一定部分が一万年ぶりに、自由と平等を享受できた時代となった。黄

金の 30 年とも言われた。

これは 1970 年代の新自由主義のグローバル化で、かつ内実は資本主義国となった旧ソ連圏と中国をも巻き込んで、世界中で格差は再び急激に拡大し始めた。

それはナオミ・クライン^{*2}に「新自由主義は、第二次世界大戦(30 年戦争)後に労働者が獲得したものを解体するための階級闘争だ」といわしめた。急激な不平等の拡大が、資本主義と民主主義の妥協として成立した大戦後の政治システムを不安定化させ、格差の拡大による大量の貧困層の出現が、コロナウイルスのパンデミックの温床となった。最低でも年 1.5%前後の経済成長が無いと資本主義は崩壊すると考えられている。

※

成長のない「定常化社会」へ移行しない限り、地球生態系の危機に対処できない。それは、資本主義を廃止して初めて可能になる。これを「脱成長のコミュニズム」と呼ぶ。私も賛同する。持続可能な発展という SDGs (持続可能な開発目標) は本質を隠す煙幕に過ぎず、斎藤幸平^{*3}は「現代版の大衆のアヘンだ」という。

ジジェク^{*4}はコロナの出口を見出すためには、ラディカルな社会変革が必要だと言っている。それは既存の世界秩序の枠組みの中では不可能と見えることを実現しなければならないから。コロナの終息には 2 年か 3 年かかりそうだ。

※

今の権力者たちの真のメッセージは、私たちの社会的倫理の基本的前提(老いた者、弱い者への配慮/ケア)を破らなければならないということだ。それが「最適者生存」というトリアージ(選別)である。これは戦争の世界でさえしてはいけない倫理である。戦時でさえ、真っ先に重症者の治療が行われるべきだとされていた。すでにアメリカはもとより、イタリアやスペインでもそれが破られている。ここに至っては、コロナ問題では、私

たちが今の経済的・社会的システム全体をどうやってやって変えていくべきかということに目を向けなければいけない。

現在、三重の危機の中にある。医療危機、経済危機、精神衛生の危機である。今回の伝染病は、ナオミ・クラインが「災害資本主義」と呼んだものの長く悲痛な歴史に新たに一章を付け加えるだ

けか、それとも新しい世界秩序が、そこから生まれてくるのだろうか？

すずしろ診療所所長
未来の福島こども基金 代表
チェルノブイリ子ども基金 顧問
沖縄・球美の里 理事
黒部信一のブログ

<https://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941>

-
- (注) *1 パウル・ヨーゼフ・クルツェン：オランダの大気化学学者。ノーベル化学賞受賞者。「人新世 (Anthropocene)」という用語を最初に使ったのは生態学者のユージン・ストローマーだが、クルツェンがこの言葉を広めたと言われている。
- *2 ナオミ・クライン：カナダのジャーナリスト、作家、活動家。
- *3 斎藤幸平：大阪市立大学大学院経済学研究科・経済学部准教授、専門は経済思想、社会思想。著書『人新世の「資本論」』(集英社新書)。
- *4 スラヴォイ・ジジック：スロベニアの哲学者。



お知らせ

☆☆☆ みなさんはヤマトシジミについてご存知でしょうか？ 小型のチョウです。

そのヤマトシジミを用いて放射能の影響を研究している琉球大学の学生さんからメールをいただきました。福島出身のKoさんは、写真も学ばれた方で、昨年3月11日より、写真と研究の現状を日記形式で届けるサイトを立ち上げました。今年の3月11日で投稿は終了するとのことで多くのみなさんに知っていただき、サイトを訪問してほしいそうです(サイトは3月11日以降もご覧になることができます)。

☆サイトの Concept より

福島原発事故から 2021 年で 10 年を数える。そして、私が琉球大学に席を置く最後の年となる(博士研究員)。在籍する大瀧研究室は、原発事故後2ヶ月からフクシマプロジェクトを立ち上げ、2012 年 8 月に発表の論文で世界的に知られるようになる。

原発事故がもたらす生物学的影響について、ヤマトシジミ(鱗翅目シジミチョウ科)を用いての研究である。私がフクシマプロジェクトに参加して約 6 年。何千匹を飼育しても見飽きることはない。英語名(pale grass blue butterfly)にふさわしく、見え隠れする翅表の淡青色に目を奪われる。本作品では、大瀧研究室で過ごす最後の1年間を、2020 年 3 月 11 日から 2021 年 3 月 11 日まで日記形式で記録する。

プロジェクトの発足から現在までご支援いただく全国の方々に、研究の志を僅かでもお伝えし、原発事故から 10 年目を共に迎えられるとしたら嬉しい。

フクシマプロジェクト(大瀧研究室); <http://w3.u-ryukyu.ac.jp/bcphunit/fukushimaproj.html>

特別サイト(2020/3/11~2021/3/11 日); <https://www.ko-photography.net/fukushima-project>

Information

★ご寄付のお礼とお願い★

◎ご寄付いただいたみなさま（団体からのご寄付・2020年7月～2021年2月末／順不同・敬称略）

※ 紙面の都合上団体のみ記載させていただいています。

※ 多くの個人の方からご寄付、寄贈品をいただいています。感謝申し上げます。

◎今はなるべく、施設維持の経費を最小限に抑えるよう努力しています。休業中にいただいた寄付は、活動再開のためにプールさせていただきます。

.....*.....
ドリームフォーキッズジャパン、ジャパンカインドネス協会（上原彩子ゆび募金より）、沖縄カカオプロジェクト（ネパリ・バザーロ）、未来の福島こども基金、子どもの未来を考えるお店・せいのう、合田燃料機器、フジロック NGO 基金、にじのひろば、城南信用金庫、WE21 ジャパンおだわら

.....*.....

沖縄・球美の里への寄付口座／クレジット（PAYPAL）のご案内

ゆうちょ銀行	00160-6-634014 振込口座 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
三菱UFJ銀行	高田馬場支店（053） 普通 1231737 口座名 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
クレジットで決済	沖縄・球美の里のホームページ「寄付する」からお申し込みいただけます。

※ ゆうちょ口座から毎月自動的に定額ご寄付いただくことができます。月額は1,000円から自由に設定でき、一度手続きをすれば、以降の郵便局からの振込手続きが不要となります。ご希望の方に専用の「自動払込利用申込書」を東京本部より送りますので、お問い合わせください。

※ 寄付をしてくださった方は、払込用紙に「ご住所・ご氏名・ご連絡先の電話番号かメールアドレス」をご記載くださいますようお願いいたします。払込用紙が使われない場合（ネット送金など）は、お礼のご連絡や領収書のご送付のため、ご寄付くださった旨、電話か・fax・メールでお知らせください。お手数をおかけしますが、よろしくお願いします。

※ 寄付金の控除について、会社や団体、個人が認定 NPO 法人に寄付された場合、所得控除・税額控除の対象になります。控除を受ける場合は、領収書が必要となりますので、東京本部からお送りする領収書を保管の上、確定申告をしてください。詳細は、地域の課税窓口か球美の里までお問い合わせください。

★球美の里の NEWS LETTER『球美の里だより』9号を発行します★

球美の里のニュースレター『球美の里だより』9号をお届けします。球美の里のご支援を続けてくださっているみなさま、ご意見やご感想をお寄せください。また、ご家族やご友人にもご紹介いただき、球美の里への支援の輪をさらに広げていただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願いします。

このニュースレターは、球美の里のホームページからカラーでご覧いただくことができます。「ニュースレ

ターはホームページで見るので、送付不要」という方は、球美の里の東京本部までご連絡をください。

※メールやFAXをいただく際には、ご住所・お名前もご記入くださいますようお願いいたします。

*ご寄付くださる方の便宜を考慮して郵便局の払込用紙を同封させていただきましたが、寄付を強要するものではありません。

認定 NPO 法人 沖縄・球美の里 NEWS LETTER『球美の里だより No. 9

発行 沖縄・球美の里 東京本部

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-19-7 タックイレブン高田馬場 702 号室

TEL: 03-6205-6139 FAX: 03-6205-6140 メール: tokyo@kuminosato.net

ホームページ: www.kuminosato.com/

保養ブログ: <http://kuminosato.blog.fc2.com/>

フェイスブック: <https://www.facebook.com/kuminosato.net>

Instagram: https://www.instagram.com/kumino_sato